

「第73回全国高等学校PTA連合会 茨城大会」に参加して

8月22日(木)・23日(金)に、「第73回全国高等学校PTA連合会 茨城大会」が開催され、竹原会長、金山副校長、金澤が参加しました。

大会1日目の22日は、次の5つの分科会がありました。

【第1分科会】

演題1「藩校『弘道館』の教育」

講師 弘道館事務所主任研究員 小坪のり子氏

演題2「もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する」

茨城大学教育学部教授 加藤崇英氏

【第2分科会】

演題1「のび太・ジャイアン症候群」

講師 司馬クリニック院長医学博士 司馬理英子氏

演題2「18歳になったら気をつけること～18歳になる前に～」

講師 有馬総合法律事務所弁護士 有馬 慧氏

【第3分科会】

演題「子育ては気力・体力・経済力」

講師 7男2女の大家族お母ちゃん 石田千恵子氏

【第4分科会】

演題「PTAは学校づくりのパートナー」

講師 花園大学社会福祉学部教授 炭谷将史氏

【第5分科会】

演題「学校と地域でつくるこれからの学校—コミュニティ・スクールとは—」

講師 文部科学省国立教育政策研究所総括研究官 志々田まなみ氏

竹原会長は「第4分科会」に、金山副校長は「第2分科会」、金澤は「第5分科会」に参加しました。

下記はそれぞれの分科会に参加した感想です。

竹原会長(第4分科会)「全国的にPTA不要論も巻き起こる中、これからどのように存在意義や加入のメリットを押し出していくかを、分かりやすい例を用いて説明していただきました。その後、会場全体をシャッフルしてのグループ協議を行い、今起きている問題や解決方法を初対面の方たちと協議し大変盛り上がりました。教師の働き方改革が進む中、PTAとして学校の力になれることをブレずに継続していくことが大切なのだと考えさせられた分科会でした。」

金山副校長(第2分科会)「『保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法』について2つの講演が行われました。講演①では、司馬医師がADHDをのび太型とジャイアン型に分けて、のび太型には目標設定が、ジャイアン型にはポジティ

ブなフィードバックが効果的と説明されました。講演②では、有馬弁護士が成年年齢引き下げにより 18・19 歳の法的保護が減る問題を指摘し、特にいじめ防止対策推進法が不適合になるため、当事者双方にとって高校生段階で対処法を学ぶ重要性について話されました。」

金澤（第 5 分科会）『『コミュニティ・スクール』の意味さえ知らずに参加した分科会でした。少子化など高校を取り巻く環境が変化する中で、学校と保護者、地域が連携・協働し学校の特色づくりをしていくことを、文科省が推進していることを知りました。後日に一宮高校でも「学校運営協議会」が立ち上がっていることを知り、PTA としてこの協議会に注目し、貢献できる活動を模索していくことも必要と感じました。」

大会 2 日目は、大相撲の二所ノ関寛氏（親方）による記念講演でした。演題は「人材育成の不易流行」。二所ノ関親方は、横綱として活躍した稀勢の里のこと。稀勢の里は引退後、早稲田大学大学院のスポーツ科学研究科に進学しています。ここでの学びや同級生の経営者からの助言などから、地元密着の J リーグ方式などを取り入れた、新しい相撲部屋の在り方を卒論にしたそうです。現在は卒論通りに実践しているだけとのことでした。

二所ノ関部屋は親方の出身県である茨城県に設けています。両国国技館の周辺に部屋を持つ親方が多い中で、あえて片道 1 時間ほどかかる“地方”に部屋を持ち、弟子たちの練習方法も伝統と最新のスポーツ科学の良いところを取り入れているそうです。例えば力士は、朝食は食わず 1 日 2 食という伝統をやめ、朝食はしっかり食べさせるようにし、土俵は 2 つ設けて効率的な練習ができるようにするなど改革していったそうです。反面、昔からやっている四股を踏むなどの力士としての基礎的な稽古は十分に時間を取っているそうです。

まさに「不易流行」、変化しない本質的なものと変化する流行を同時に取り入れて全体像を構想し、それを実践しているという親方は自信に満ちていました。

教育の現場でも「伝統と改革」を見極めながら、環境に即して変革していく実践が必要といえます。

なお、親方が最後に「二所ノ関部屋の力士に注目して、応援してください」と言われていました。直後の秋場所では、二所ノ関部屋の「大の里」は優勝し、関脇から大関に昇進しました。親方が構想した仮説を実践し、「結果」を出していることに感銘を受けました。